

平成二十三年度 第五回

島熊山能面祭図録



島熊山能面祭実行委員会
代表 豊中市・豊中市教育委員会 協力 豊中不動尊
第五回島熊山能面祭実行委員会 幹事 佐野文子
大機文蔵員「増友」 佐田千子

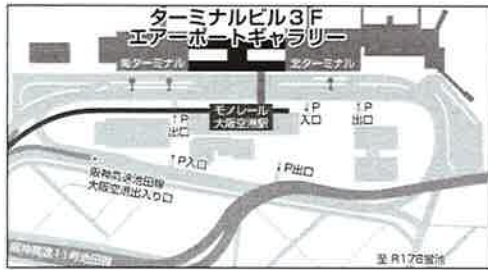


◆能面展

平成 23 年 8 月 26 日 (金) ~ 28 日 (日)
午前 10:00 ~ 午後 5:00

エル・おおさか 9F ギャラリー
大阪市中央区北浜東 3-14

エル・おおさかへのアクセス
●京阪 地下鉄谷町線「天満橋駅」より西へ 300m
●京阪 地下鉄堺筋線「北浜駅」より東へ 500m
●地下鉄御堂筋線「深津橋駅」より東へ 1,200m
●JR 東海道線「大阪天満宮駅」より西へ 850m
○駐車場スペースが限られているため直前直前でのご来場はご遠慮ください。



◆能面展

平成 23 年 9 月 3 日 (土) ~ 5 日 (月)
午前 10:00 ~ 午後 5:00

大阪国際空港 (伊丹空港)
ターミナルビル 3F エアポートギャラリー
大阪府豊中市箕池西町 3 丁目 555 番地



◆島熊山桜能

平成 24 年 春

豊中不動尊
大阪府豊中市報丘 2 丁目 14 番 8 号

※今回の島熊山能面祭の受賞作品で御覧いただけます。
演目・日時の詳細は <http://yuugen.net/index.html>

豊中不動尊へのアクセス
●新大阪駅・大塚駅から地下鉄千早中央線下車
●千早中央線から 8, 10, 45, 49 系統バス 豊中不動尊前下車 (約5分)
●阪急豊中駅から車で10分
●モノレール少路駅から徒歩10分

◆お問い合わせ

島熊山能面祭実行委員会

<http://www.shimakumayama.yuugen.net/>
mail:mai@yuugen.net

ごあいさつ

東日本大震災で被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。震災を受けられた各県からもご応募いただきました。私たちが励まされた感じがいたします。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

平成19年に「面打ちと能楽師の交流会」として発足しました島熊山能面祭は、審査委員の先生方と多くの面打ちの皆様との多大なご協力により、第5回を迎えることが出来ました。厚くお礼申し上げます。

島熊山能面祭は「魅力ある能面」「演能で使用できる能面」を目指し、日々努力されている面打ちの方々が能楽師との交流やアドバイス、舞台上で使われる機会などを得ることにより目標に一步でも近づき、能面制作の励みとなっていくことを願っております。あわせて後世に残る優れた新作面の発掘と将来的に魅力ある作品を生み出す基盤の拡大・育成を通じて、日本の伝統芸能「能楽」の発展に寄与し、支援することを目指してまいりました。

能面は舞台上で使われるのが本来の使命です。複数の能楽師の目で優れた作品を正当に評価する権威ある能面祭にすべく努力を続け、数多くの優秀作品を発掘し、能面制作のレベルアップに貢献できたと自負しております。

今回も全国131名の方々から能面192面、狂言面14面、合計206面(内、面打ち歴5年未満の「新人」は22名)の応募がありました。応募数も増え、作品の技術水準も向上し、「能楽師が舞いたくなるような能面」に近づきつつあると、実行委員会も喜んでいます。

最後に、審査やアドバイスをいただいた梅若 玄祥師、大槻 文蔵師はじめ、多くの能楽師の先生方が献身的に御協力いただいたことに、厚くお礼申し上げます。

また、ご後援いただいた豊中市長・豊中市教育委員会に感謝いたします。

平成25年8月21日
島熊山能面祭実行委員会

審査員総評

全体のレベルは上がっています。舞台上で使える作品は多くありました。しかし「能楽師が舞いたくなるような能面」のレベルを上げるのはこれから難しいと思います。どう近づけるかが課題です。

上手くなっているのですが、縛まりが良すぎて小さくなり、ぼやけてしまう傾向もみられます。部分的でなく全体の力とバランスを考え総合的に良いものを作って下さい。

そこまで似せるかと思うほどのレプリカ系の作品もあります。そのまま型や彩色を表面的に写すだけではだめです。表情や力強さ、可愛さ、美しさを写して下さい。どのような女性かなどと思いつけて打つことも大切です。

技術は上手くなっているのですが、技術が先に立って面白い面が少なくなっています。写すですから写しきったらいいのですが、写すほど弱くなり、彫の力が無くなってはダメなのです。

骨格を表現するために影と表の彩色が過大に表現されている面も見られます。古彩色は必要です。しかし古く見せるものでなく、面に対して必要な彩色と考えてください。舞台に出て効果のある彩色、毛書き、彫り、型を考えてください。近くから見たら綺麗ですが舞台上で上がったら効果がないのはだめです。創作面も同じです。

良い面は何十面に一面と云うこともあり、経験の少ない人が偶然作る場合もあります。思いを込め過ぎず、自然に、力を入れず素直に打つことも必要ではないでしょうか。

皆さんで「100年後まで残る、平成の名作」を是非作っていただきたいと思っています。そのためには、是非多くの能を見て下さい。そして多くの古面を見て下さい。(文責・事務局)



梅若 玄祥先生



小笠原 匠先生



左より大槻文蔵、山本博通、山崎正道、赤松積英、武富廉之各先生

大賞



梅若 玄祥賞

「童子」

住村 太 (福岡県)

非常に単純で面に左右されないで演者が使いやすい面です。童子らしい表情で良くできています。幅広い曲に使えますが、思いきんだ曲には向かないでしょう。整った顔で彩色も良いのですが、少し毛描きが多いようです。



大槻 文蔵賞

「増女」

原田 ちよ子 (愛知県)

眼の上のくまの彫りなどがとても良く、顔から目にかけた表情にもあります。しかし、強さに欠けます。少し下唇が出すぎていて、唇の赤が強いのが少し気になるようです。能舞台上で十分使えます。

特別賞



豊中市長賞

「赤般若」 関東 秀康（大阪府）
骨格は良くできています。各部分もうまく作られています。ただ、赤般若なら全体をもう少し赤くした方が良いでしょう。額も赤みを帯びても良いと思います。表情の強さもあります。



豊中市教育委員会賞

「泣増」 西村 武（福岡県）
良くできているのですが、顔が現代的すぎます。若役的に使える。美しくすぎて舞台に出ると表情が小さく狭くなる恐れがある。口鼻などが力があり眼の表情も良い。頬の赤が気になります。顔の配置が全体的に少し下がります。

審査員特別賞



「童子」 相良 悟（福岡県）

童子らしい良い目をして、表情は出ていますし、スケールがあって強い。反面、演者をうごかし、使いづらい面です。思いを會んだシテ、大江山などには使えるでしょう。頬から口角にかけて少ししまりはありません。



「鮫悪尉」 井上 忠夫（東京都）

鏡顔の専用面です。表情も彩色も良くできています。骨格の表現をすこし工夫してください。力強さがあります。裏の彫をもっと少し検討してください。良いと思います。



「節木増」 荒牧 玲子（福岡県）

骨格は良く眼の表情も良いのですが、口元が笑しくありません。眼頭から小鼻にかけての工夫はほしい。やや悪い感じかします。

優秀賞



「孫次郎」
貞光 康子（福岡県）
良いのですが、源氏物語の絵に出てくるような表情です。能面としての力はありません。色はきれいすぎて、訴えかけてくるものが少ない。面の特徴をつかんだ彩色を工夫してください。



「鮫尉」
松原 洋一（広島県）
良くできています。頬の皺などは上手です。ただ、残念なのは口です。神の面です。口周りの表情が生々しく感じます。もう一度じっくり見なおしてください。



「小面」
大南 真（兵庫県）
彩色も小面の色ではないですね、もう少し工夫してください。全体的に骨格としては良いのですが、表情が突っ張っている感じがします。口角から頬にかけての線が、表情の邪魔をしています。直せば目の表情も良くなるのでは？



「瘦男」
大南 真（兵庫県）
目と口は訴えるものがありとても良い面です。左の頬が良いのですが、右の頬から額の線が流れすぎている感があります。もったいないですね。彩色にもう少し陰影をつけた方が良いでしょう。



「深井」
住村 太（福岡県）
良い出来です。頬が生きています。オチコも良い。ただ、口が開き過ぎてはならないでしょうか？これほど開くと演者の口も見えてしまいます。



「長霊滝見」
藤本 重彦（大阪府）
滑稽な眼が顔振の象徴みたいが良いです。口のヘン：の筋張りも少し強。毛描きをもう少し工夫して、彩色と彫がはっきり区別がつくようにしてほしい。全体はうまくできています。



「大悪尉」
田中 孝洋（京都府）
眼が効いていて良いのですが、表情に限らばいいさがあります。大悪尉は恨みはありません。悪いですね。裏の彫を工夫してください。面を着けることができません。もったいないです。



「天神」
設楽 清（東京都）
バランスは良いのですが、眼はもう少し下向いている方が良いでしょう。天神は表情が取りやすい面なのですが、髭鬚や顎のしまりなどが弱く、もうひとつ迫力に欠けます。



「大悪尉」
藤田 修三（兵庫県）
良、表情はいい、口もよく、頬の皺が、表情は良いのですが、正面からの表情に替わります。オチコが、少し、彩色に思い入れが過ぎている感じが、舞台上でそれだけ強くなりすぎ、少し重いです。



「賢徳」
田中 徳平（福岡県）
良、面です。使えるでしょう。もう少し目の穴が大きいと表情が変化すると思います。狂言でも能面と同じように表情を変化させる必要があるのです。能面と狂言面の違い、どちらも検討してください。

最優秀新人賞



「筋怪士」
久保田 一成
(岐阜県)

しっかりとしていて、恐ろしげで良く、新人でもこれだけ良い面が出来るのです。意気に打った結果でしょうか？大事なことです。口角が良いと思いますが、口の端をもう少し強くするとさらに良くなるでしょう。

技能賞



「阿修羅」
田水 滸 (大阪府)

技術的に優れた彫刻です。口に表情があるのですが、鼻筋が通り過ぎていて一つの表情になっています。他には使えないでしょう。鼻なども舞台で、どんな効果があるかを考えてください。



「江」
伊庭 真一 (滋賀県)

制作面は自由が有り、良いものがある可能性はあるのですが、エネルギーが感じられません。眼も良いのですが、振り分け髪など毛遣いが中途半端で他に使うには非常に難しい。関係に付けたいのが多いです。

奨励賞



「小面」
加地 幹生 (大阪府)



「花乙」
阪本 幸夫 (大阪府)



「小面」
佐々木 光夫 (京都府)



「蟹」
岡部 安英 (岡山県)



「郎髯男」
境 和義 (福岡県)



「節木押」
小林 利夫 (滋賀県)



「中村」
原田 ちよ子 (愛知県)



「成男」
原田 ちよ子 (愛知県)



「泥鰌」
谷 宣子 (滋賀県)



「大虎児」
鈴木 康志 (静岡県)



「地」
沢中 龍三 (大阪府)



「老女」
菅原 聖元 (滋賀県)

優秀新人賞



「白式尉」
鬼美 みわ子 (兵庫県)
とても良い彫です。目は眼の裡が大切な切れの良さが求められます。口が開き過ぎです。



「俊寛」
塚田 和夫 (大阪府)
良く写っているのですが、鼻筋の深さが生きていません。鼻筋の表情ももう一つありません。



「蟹」
馬場 清治 (滋賀県)
力強さがあります。眼が少し飛び出しています。顔面は左右対称ではありません。裏の彫を研究してください。



「神宮皇后」
辻本 和仁 (大阪府)
部分には良いのですが、表情に深さがありません。一つの表情が強すぎて舞台で表情の変化が出せません。

奨励賞



「白飯茶」
川井 郁司 (兵庫県)



「中村」
眞野 恵子 (福岡県)



「流理」
眞野 恵子 (福岡県)



「連髪」
眞光 恵子 (福岡県)



「神体」
山口 義法 (茨城県)



「郎髯男」
坪野 認孝 (福岡県)



「中鳴食」
田中 通義 (福岡県)



「方頬」
田中 成治 (愛知県)



「延命冠者」
伊藤 純 (愛知県)



「茶漬」
福原 一也 (兵庫県)



「小鳴食」
福原 一也 (兵庫県)



「神体」
河野 壽之 (兵庫県)



「成翁」
菅原 聖元 (滋賀県)



「黒武尉」
設楽 清 (東京都)



「源次郎」
龜川 博通 (兵庫県)



「表堂遊見」
田中 和彦 (埼玉県)



「中村」
大橋 哲一 (滋賀県)



「小面」
田中 通義 (福岡県)



「中鳴食」
田中 通義 (福岡県)



「方頬」
田中 成治 (愛知県)



「延命冠者」
伊藤 純 (愛知県)



「茶漬」
福原 一也 (兵庫県)



「小鳴食」
福原 一也 (兵庫県)



「神体」
河野 壽之 (兵庫県)



「方頬」
古海 大か子 (愛知県)



「白飯茶」
眞次 玲子 (福岡県)



「小飛出」
前田 哲郎 (兵庫県)



「輝丸」
平橋 実一 (福岡県)



「増女」
伊庭 真一 (滋賀県)